# 今村駿一郎先生を悼む

本会名誉会員今村駿一郎先生は、さる1月8日、脳出血のため、お亡くなりになりました。享年82歳。

今村先生は京都帝国大学理学部植物学教室で植物生理学を専攻されました。その後、長年、京都大学農学部教授の職にあって、植物の開花生理に関する研究や気孔の開閉機構に関する研究で世界的な業績をあげられたことは、広く知られているところです。しかし、私たちにとっては、何よりも〝カワゴケソウの今村先生〟でした。

カワゴケソウの仲間といえば、熱帯の急流に生育する奇異な水生植物ということで、日本に自生する可能性など誰も考えなかったことです。しかし、大学の恩師であった郡場寛教授と一級上であった三木茂氏からカワゴケソウが興味のつきない植物であることを聞かれた今村先生は、その植物なら自分が子供のころ遊んだ川の石の上についていた苔のようなものではないかと思われたのでした。昭和2年3月、三木茂氏と共に現地を訪ねられましたが、時期悪く、問題の植物は見つかりませんでした。しかし、同年8月、郷里の鹿児島県薩摩郡山崎村にある川内川の一支流久富木川を再訪された今村先生は、ついにカワゴケソウを「発見」されるにいたった訳です。これは、日本のフローラ研究史上、画期的な発見となりました。

翌昭和3年には、同県肝属郡大根占村神ノ川で、別属のカワゴロモを発見されました。夜は小学校の教室に泊まりながら、九州南部の川をくまなく歩き回られたとうかがっております。

その後、今村先生の御指導のもとに、地元の研究者の活躍もあって、日本には2属6種のカワゴケソウ科植物が自生することが明らかにされました。しかし、1950年ごろから河川改修、ダム構築、あるいは畜産廃水、生活廃水などの流入による水質汚染が進み、カワゴケソウの群落は急激に減り始めます。今村先生は、まだ未報告の種があるのだが材料が手に入らなくなってしまったと嘆いておられました（オオヨドカワゴロモは、その〝幻の植物〟のひとつです）。

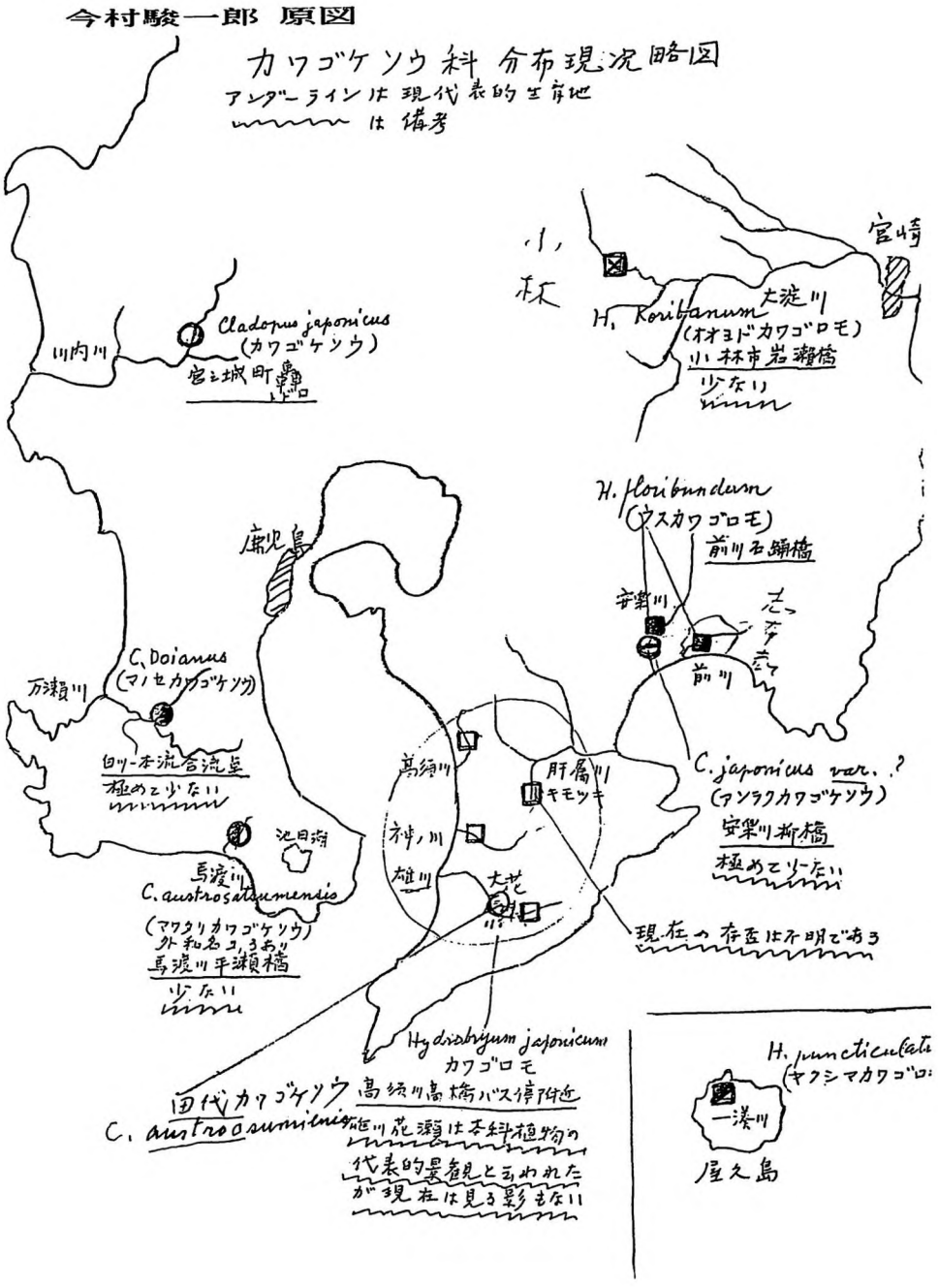
先生はカワゴケソウの絶滅を心配し、その保護のためにも尽力されました。自生地のいくつかは鹿児島県の天然記念物に指定されましたが、上流に変化がおきてもその影響は直ちに群落の衰退を招来するため、「川の一部を保護しただけでは無意味で、広い範囲を汚染から守らねばならない」と主張されました。しかし、川岸に天然記念物の標柱が立っているだけで、何ら有効な保護手段が打たれず、次々と群落の衰退が進む現実に深い危機感を抱いておられた様子でした。

栽培によって保存を計れぬものかとさまざまな試みも行なわれました。何度も失敗を繰り返されながら、カワゴケソウの栽培に必要な条件をひとつひとつ明らかにされてゆきました。しかし、実際には全ての好条件をそろえることはむずかしかったようで、栽培によってカワゴケソウをふやし、安全で適当な地でカワゴケソウを守るという先生の夢はかなうことなく、逝ってしまわれました。カワゴケソウの保護は、私たちに残された課題となっています。

今村先生のカワゴケソウの研究に対する情熱は、晩年も失われることなく、京都大学退官後、南九州だけでなく、カワゴケソウ科植物の豊庫であるスリランカへも足を運び調査を進められました。帰国後、たくさんの石をつめたリュックを背負ってよく京大へ見えました。その石にはカワゴケソウのさまざまな種類がついています。それを私たちに示しながら「スリランカは実におもしろい所だよ」と語っておられたお姿を、なつかしく思い出すことができます。

また、カワゴケソウの特異な生態をなんとか解き明かせないものかと、さまざまな着想をもっておられました。3年前、京都で開催された植物学会では、80歳の御高齢にもかかわらず研究発表（ポスター）をされ、カワゴケソウ科植物のガス交換について熱心に議論されました。「カワゴケソウ科の植物には細胞間隙がないんだよ。そんな植物、ほかにあるかね。君は何故だと思う。」そう語られた今村先生の若々しい口調を今でもよく覚えています。急流に適応することで特殊化したカワゴケソウ科を理解するために、呼吸と光合成におけるガス交換の問題こそ本質的に重要なのだという先生の御指摘は、全く正しいものだと思います。先生は、ここでも私たちに大きな宿題を残されました。

今村先生は、本会発足時からずっと暖かく見守ってきて下さったお一人です。会報への御寄稿をお願いしたとき、書いてもよいが今少し待ってくれということでした。




先生は実に慎重な方で、実験データが出てもそれを論文にするまでに何年もかけられることが、たびたびであったと聞いております。論文と会報の原稿を同列には扱えませんが、これも今村先生のお人柄であったのかと、今さらながらお偲びする次第です。

今は亡き今村駿一郎先生の御冥福を祈り、追悼の一文とさせていただきます。

〔付記〕カワゴケソウ発見のいきさつについては、次の